やっとかめ文化祭

# 歴史まち歩き

## 16 美濃路 枇杷島

コース【地下鉄浅間町駅 ▸▸ 枇杷島橋】

# 三英傑が勝利とともに凱旋し、朝鮮や琉球の使節が行き交った街道のまち

「美濃路」は、東海道・宮宿(熱田)と中山道・垂井宿を結び、天候に左右された宮～桑名間の海路をバイパスする“脇往還(わきおうかん)”と呼ばれた重要な街道です。
江戸時代には、将軍上洛時や朝鮮通信使、琉球王使、お茶壺道中などが通行し、さらにそれ以前には、信長が桶狭間の戦いや美濃攻めで、秀吉は小田原征伐で、家康は関ヶ原でそれぞれ勝利をおさめて凱旋した栄光の街道でもありました。

### ① 宝周寺(ほうしゅうじ)

高木門と呼ばれる山門は、文化11年(1814年)建立といわれ、江戸中期のものとされる面影を残しています。山門の奥に本堂がありますが、浄土宗鎮西派の寺院で、元は栄生村にあったそうで、阿弥陀如来四十八願所の17番札所になっています。

### ② 林貞寺(りんていじ)

寛永16年(1639年)に、西区弁天通からこの地に移築。本尊は木造の釈迦仏。観音堂には「馬頭観音」を安置。ナマコ壁の高塀は元禄時代に建立されたものです。また境内には「おもかる地蔵尊」があり、よく念じた上でおもかる地蔵さまを捧げ持った時、軽ければ願いがかない、重ければかなわないと言い伝えられています。尾張府下三十三ヶ所霊場の8番札所となっています。

### ③ 海福寺(かいふくじ)

寛永14年(1637年)創建。かつて藩祖義直は美濃路を通って鷹狩りに行き、その道中に当寺で小憩したといわれています。本堂は戦災で焼失し、現在の本堂は1964年(昭和39年)に再建されたものです。

### ④ 樽屋町の大木戸跡(たるやちょうのおおきどあと)

治安維持のため、城下町には辻ごとに木戸が設けられ、特に重要な街道では大木戸を設置。夜間は閉鎖して城下の防御としていました。名古屋城下には3か所の大木戸があり、南は東海道から美濃路を通り、城下への入口となる橘町(中区)、東は飯田街道入口の赤塚(東区)、西がこの美濃路樽屋町と押切村の境(西区)にありました。

### ⑤ 白山神社(はくさんじんじゃ)

榎権現の名で親しまれています。織田信長が永禄3年(1560年)の桶狭間合戦の時、勝利祈願に太刀一口を寄贈したといわれています。また藩政時代に美濃路を通る諸大名は、ここに必ず参拝したといわれています。

### ⑥ 八坂神社(やさかじんじゃ)

元禄15年(1702年)に現在地に遷宮。祭礼は長寿延命と豊作祈願の「提灯祭り」が有名で、毎年5月の第3土曜日、日曜日に行われます。なかでも初日の夕方に高さ20メートルの竿に5段にわたって提灯をつるした「山竿提灯」は壮観です。

### ⑦ 尾州殿茶屋跡(びしゅうどのちゃやあと)

枇杷島村と押切村の境の石橋のあたりに、諸侯の通行に際し、尾張藩と関係の深い要人を接待するための茶屋として造られたものです。名古屋には、宿場としての本陣や旅籠がなかったため、熱田の宿と清洲の中ほどに疲れをいやすための施設として設けられました。

### ⑧ 八幡社(はちまんしゃ)

享禄2年(1529年)創建。俗に鷹八幡といわれています。藩祖義直以来、歴代藩主の崇敬も厚かったといいます。以前は庄内川の堤防上にあり、治水の守護神でした。

### ⑨ 清音寺(せいおんじ)

治承3年(1179年)、時の太政大臣藤原師長は、平清盛によって尾張国井戸田(瑞穂区)に流され、その地で村長の娘を寵愛。後に赦されて都に帰るとき、形見に守本尊の薬師如来と白菊の琵琶を残しました。しかし娘は別れを悲しみ、琵琶池に身を投じたため、この地を琵琶島と命名。娘の法号清音院から寺名が付けられました。

### ⑩ 中島黒體龍王大神社(なかじまこくたいりゅうおうだいじんじゃ)

中島黒體龍王大神社は、中島黒體龍王大神という龍を祀っています。もともとは西枇杷島町下小田井中島という庄内川の中洲にありました。
慶安年間に、枇杷の洲と呼ばれていた頃、立穀豊穣の祈願をすると夢で龍神が出現し、「国土鎮護豊穣を守る」との言葉を残しました。人々はそれを喜び、この神社を祀ったとのことです。
さらに1789年、木曽御獄を開山した行者・覚明がこの地へ巡行にやってきた際、大雨で庄内川にかかる橋が流失してしまい困っていると、金色の大蛇が現れ対岸へと運んでくれた、という話もあります。
覚明は後にこの神社を改修したのですが、中島は庄内川の改修とともに無くなってしまったため、神社は1953年にこの地に移転しました。手洗い場には黒く光る龍の姿が、本殿にはとぐろを巻く蛇の姿が見られます。

### ⑪ 旧枇杷島橋のモニュメント(きゅうびわじまばしのもにゅめんと)

織田信長が吉法師と呼ばれた子供時代に、この辺りの河川敷で近在の子らとよく遊んだといわれ、そこに架かる美濃路の橋が枇杷島橋です。橋のたもとにはモニュメントがあります。
旧枇杷島橋は、元和8年(1622年)に架けられ、長さは大橋69間(125m)、中島13間(24m)、小橋29間(53m)、幅は3間(5m)～4間(7m)と言われており、いまだに川の中に橋脚部分17本が残り、川面から時折顔を覗かせます。

〈注意事項〉この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ:(公財)名古屋観光コンベンションビューロー　TEL 052-202-1145(この情報は平成25年11月現在のものです。)